



Title	「マチ」の証言:トライゲン区(1) : メレヒルダ・ウエンテラオの場合
Author(s)	千葉, 泉
Citation	大阪外国語大学論集. 2001, 24, p. 1-26
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/79842
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

「マチ」の証言：トライゲン区（１）
—メレヒルダ・ウェンテラオの場合—

千 葉 泉

**Testimonio de "machis" : Traiguén (1) :
caso de doña Merejilda Huentelao**

CHIBA Izumi

RESUMEN (要約)

Éste es un testimonio de una "machi", chamán del pueblo mapuche, grupo étnico residente mayormente en Chile. Doña Merejilda es oriunda de la comunidad de Temulemu ubicada en la comuna de Traiguén, 9a Región, y ejerce una labor importante tanto curativa como rogativa en distintas comunidades e incluso en zonas urbanas, llegándosele a llamar "lonko machi", o sea, machi que representa una gran autoridad en la zona.

Los machis en la actualidad cumplen un rol importante no solamente en el aspecto religioso-curativo, sino también en aspectos socio-políticos como, por ejemplo, en movilizaciones reivindicativas étnicas, en tanto poseedores de valores tradicionales mapuches. Y por otra parte, también benefician a los pacientes "win-kas" (población no indígena) en general, sobre todo, por su gran capacidad para combatir enfermedades de origen sobrenatural, que no se pueden tratar por la medicina occidental.

A pesar de esta importancia que revisten los machis contemporáneos, en la mayoría de los estudios que han abordado el tema se ha puesto mayor énfasis en el análisis e "interpretación" de parte de los estudiosos, asignándoseles a los mismos machis solamente el rol del "informante". Aunque a veces fragmentos de sus testimonios se utilizan para "reforzar" las hipótesis, aquéllos no aparecen en idioma original, sino solamente su traducción en español o en otros idiomas. Y posiblemente se les han escapado algunas connotaciones sutiles que se encierran en los testimonios originales.

Considerando esta situación, este artículo tiene por objetivo principal el de presentar en idioma original el conocimiento de una machi en concreto, junto con su traducción completa en japonés. Y su segundo objetivo es, así, contribuir para

revisar algunas de las afirmaciones genralizantes que se han establecido en la materia.

Quisiera agradecerle profundamente a doña Merejilda Huentelao y a su esposo don José Cadín Pichún, por permitirme compartir este valioso conocimiento. Y por último, mi otro agradecimiento se dirige a don Hilario Huirilef Barra, consejero de la CONADI, por haberme ayudado a aclarar algunas expresiones en mapudungun.

1. 序：本稿の意図

本稿は、チリの先住民マプーチェのシャーマニズムについて、一人のマプーチェ女性シャーマンが語った証言の原マプーチェ語による記述と邦語訳、およびその解説である。

メレヒルダ・ウェンテラオは、第9地域のトライゲン区に位置するテムレム共同体に生まれ育った。証言を語ってくれた当時年齢77才であった彼女は、能力のある「マチ」（シャーマン）として共同体内外の人々の尊敬を集め、近辺一帯に居住する複数のマチの中でも「筆頭マチ lonko machi」と呼ばれる存在である。

マプーチェの共同体が数多く点在する第9地域では1990年代に入ってから土地回復闘争が激化した。テムレム共同体でも数年前から土地闘争が展開され、メレヒルダも精神的支柱の一人としてこの闘争に参加したのち、昨1999年7月に区内の新天地に建設されたラ・ウニオン・テムレム・グランデ共同体に移り住み現在に到っている。⁽¹⁾

このように、先住民族復権の気運が高まる今日のチリ社会の中で、先住民シャーマンたちは民族の伝統的価値を最も強烈に体現するパーソナリティとして、宗教・儀礼的な局面はもとより、社会・政治的な局面でも重要な役割を果たしている場合が少なくない。

もちろん伝統的価値の保持といっても、16世紀のスペイン人による征服、あるいは19世紀末に起こった「平定」以前の世界観やシャーマニズムの体系が頑なに保持されているわけではない。現代のマチは「父なる神」を始めとするキリスト教の概念を受容し、多くの疾病に対する西洋医学の有効性を認めている。その一方で、彼らは日常的に「ウィンカ（非先住民）」患者の治療にも従事しており、「マプーチェ民族の秘教的シャーマン」といった閉鎖的な視点では捉えきれない広範な社会的機能を果たすに到っている。⁽²⁾

以上のように、現代チリ社会のさまざまな局面で重要な役割を果たすマチやマチを中心とするマプーチェのシャーマニズムに関して、これまで発表されてきた研究は少なくない。だが、現代のマチを扱った前世紀の後半の研究に限って言えば、その大半は研究者による分析や理論的な説明を中心とする形式を採用している。そしてマチの証言を掲載する場合でも、著者の分析や説明を補強するのが主な目的であり、バイリンガルの通訳に作製させた「スペイン語訳」や、スペイン語訳をさらに翻訳した「英語訳」等を部分的に引用するケースがほとんどである。⁽³⁾ つまり、あくまでも「主体」は研究者であって、マチたちは「情報提供者」という「客体」の地位に置かれているという傾向が強い。

もちろん従来の研究が、マプーチェのシャーマニズム世界の解明に貢献してきた事実を否定するつもりはない。しかしながら、こうしたタイプの研究は次のような問題を抱えている

ことがある。

第一に、自らが用いた少数のマチに関する情報を、マチ全般に共通する特徴であるかのよう一般化して論じてしまう危険がある。この点については次節で述べる。

そして第二に、言語上の理由からマチたち自身の認識が必ずしも正確に伝わらないことがある。この問題は次の二つのレベルで起こりうる。

まずマチが純粋なマプーチェ語で語った部分については、始めから「スペイン語等の訳」が呈示されるため、読者がその「訳」の妥当性を検討することは物理的に不可能となる。もちろん、マプーチェ語を解さない場合には「著者」といえどもこの例外ではない。

一例を挙げよう。メレヒルダの発言の中に"ranguinielwe deya"というマプーチェ語の表現が見られる(次節<4>参照)。これは「仲介役の妹」、つまり「神が天界と地上界の仲介者として置いた妹」といった意味である。

ところで、この中の"deya"という名詞は「ある男性からみた妹(または姉)」という相対的親族名称である。したがって、この表現には、例えば「神」が「兄」の立場から「妹」であるマチ、メレヒルダに語りかけているといった含蓄が内包されているといえる。

そしてこうした含蓄は、「何故現代のマチの大半が女性なのか」という重要な議論⁽⁴⁾に関して、例えば、「マチを任命する神格」と「任命されるマチ」との間の「保護すべき兄(つまり男性)と保護されるべき妹(つまり女性)」という、いわば「疑似兄妹関係」といった認識から考察する可能性を示唆している。⁽⁵⁾

ところが、これを一見類似するスペイン語の"hermana"という表現に訳してしまうと、呼び手の性別に関わらず、単に「姉または妹」を意味することになり、メレヒルダを任命した神格の「兄」すなわち「男性性」という相対的含蓄が欠落してしまうことになる。

次に、マチたちの原マプーチェ語での「語り」には、しばしば単語や動詞語幹のレベルで意図的にスペイン語の表現が混入される。メレヒルダのケースでは、「神 Dios」、「(神と)対話する conversar」、「靈魂 espíritu」、「邪術にかけられる hace-mal-ngen」(下線部のみスペイン語)等の宗教・シャーマニズム用語、「カピタン capitán」、「カラビネーロ carabinero」といった、本来軍事・警察職名称でありながら儀礼職名称に転用されたもの、「ナイフ cuchillo」、「猟銃 copeta ("escopeta"がデフォルメした形)」といった武器名称などが挙げられる。これらの表現は、ウィンカ社会との接触を通じたマプーチェ社会の文化変容の問題を考察するための興味深い材料となり得る。⁽⁶⁾ところが、全文が「スペイン語訳」で呈示されたのではこうした考察を行うことも始めから不可能となる。

そして最後に、以上の問題とも関連することだが、「研究者」と「研究者が研究対象に設定している人々」との関係に関わる問題が挙げられる。

民族復権の気運が高まる現代のマプーチェたちの間では、彼らの文化を語る外部の研究者に対して、必ずしも好意的とは言えない視線が投げかけられ始めている。「自分たちはよそ者に『解釈される』ことなど望んではいない」、「自分たちマプーチェのみがマプーチェ文化を正しく語ることができる」、「研究者に情報を提供することでわれわれは何を得るのか」等の発言を、筆者は各地のマプーチェたちから耳にしている。フィールドで調査をする研究者が、

自己の「研究」の「客体」に設定している人々のこうした主体的な視線に対し、「分析型」の研究で応えることは難しい。

本稿が原マプーチェ語による証言の記述を主軸に据える理由は、以上のような問題意識に基づいている。それでも、やはり「筆者主体」の研究スタイルに変わらないではないか、と言われるかもしれない。だが少なくとも、現代に生きる一人のマチが語ってくれた具体的な知識を、可能な限り解釈を排除する形で書き残しておくことはできるだろう。それと同時に、筆者がどのような形でそれを「活用」したのかを彼女を始めとするマプーチェたちに目に見える形で示すことはできる。

以上から、本稿の第1の目的は、一人のマチの証言を原語のままで記録すること、そしてそれを通じて、先住民復権をめぐる議論や紛争が活性化しつつあるチリ社会において重要な役割を果たしつつあるマチの認識を伝える具体的な情報を提供することにある。そして第2の目的は、そのことを通じてマチやマプーチェの宗教に関する「定説」の検証、あるいは再検討にささやかながら貢献することである。⁽⁷⁾

2. 証言に関する解説

メレヒルダの証言を呈示する前に、その内容に観察されるいくつかの特徴を見ておこう。

（1）「マチ職」のキリスト教的コンテクストにおける「権威付け」

前節で述べたように、マチは現代マプーチェ社会において民族の伝統を最も強烈に体现するパーソナリティーである。だが、そのマチの存在理由に関するメレヒルダの証言からは、三重の意味でキリスト教の影響が指摘できる。

第一に、メレヒルダは彼女自身の「マチ召命」の次第に言及し、夢で「天界」にある「神の宮殿」に招かれ、他ならぬ「神」の手でマチに仕立てられたという旨を語っている。そして、この「神」、「神の宮殿」といった概念は、スペイン語の名詞および名詞句 ("Dios", "Palacio de Dios") を用いて表現されている (〈1〉)。つまり、メレヒルダは自分をマチとして召命したのは他ならぬ「天界」におおす「神」であったとし、みずからのマチとしての正統性をキリスト教の「絶対神」の権威に求めているのである。

だが一方で、彼女が招聘されたというその「神の宮殿」は、マプーチェ民族の伝統的な宗教やシャーマニズムに関わる要素で埋め尽くされていた。

天界に位置する「神の宮殿」には「レウエ *rewe*」が植えられており、メレヒルダのためにも新たなレウエが植えられたという。「レウエ」とは、マチのシンボルともいえる階段上の木彫りで、彼らが天界と交信する手段でもある。また彼女は、片面太鼓「クルトゥルン *kultrun*」もそこで与えられたが、そこに置かれていたクルトゥルンは「12 *mari epu*」個であったという。「クルトゥルン」は祈願儀礼や治療儀礼においてマチがシャーマンとしての機能を果たすのに最も重要な楽器であり、「12」はマプーチェたちが伝統的に聖なる属性を付与してきた数

字である。さらに、彼女はそこで「花開いたフォイエ」を意味する「フォイエン・ラユ foyen rayū」というマチ名を与えられた述べているが、「フォイエ」とはマプーチェの代表的な聖木で、上記の儀礼においても重要な役割を果たす。

このように、彼女を召命した「キリスト教の神」が鎮座する「天界の宮殿」には、マプーチェの伝統的シャーマニズムの特徴が深く刻み込まれていることがわかる。

つまり、メレヒルダの認識には「マチのキリスト教化」と「キリスト教の神のマプーチェ化」とでもいうべき、表裏一体をなす二重の混交現象が観察されるといえる。

ところで、このような「個別のマチの（キリスト教の）神による召命」の問題は、すでに従来の研究でもしばしば指摘されている。⁽⁸⁾

だがそれと同時にメレヒルダは、「筆頭マチ」としての風格にふさわしく、従来の研究ではほとんど指摘されていない「制度そのもの」としてのマチの創造にも言及している (<2>)。

彼女によれば、天地創造間もない頃、「フォイエ林 foyentu」で失踪した男の子が他ならぬ神の手で初代マチに仕立てられたのだという。「フォイエ foye」とは、前述したマプーチェ民族の聖木である。そして、男の子はそのフォイエの林の中で、象徴的な形で「神」から薬草を与えられた旨をメレヒルダは語っている。

すなわち彼女の認識の中では、「マチの起源」をキリスト教の始源的時空に位置づけることにより、「マチの制度」そのものが「聖化」されているといえる。

そして第三に、メレヒルダは、初代マチに召命されたマイマイリカンがみずからマチに仕立てたのが、自分の「父方祖母の母方祖母」にあたるパンチータ・パンチャであったと語る (<5>)。換言すれば、自分の直系の祖先にあたるとするパンチータなる女性マチを、キリストに任命されたという初代マチ、マイマイリカンに系譜付けているのである。⁽⁹⁾

こうして、間接的にはあるが、ここでもキリスト教の神の権威に依拠してみずからの個人のマチとして正統性が強調されている。

以上から、マプーチェの伝統を強烈に体現するマチの存在が、「メレヒルダ個人」、「制度」の両レベルにおいて、キリスト教の「絶対神」等の概念に依拠することによって「権威付け」されているといえる。

(2) 「洪水神話」のキリスト教的再解釈

またメレヒルダは、古い時代から受け継がれてきたマプーチェ独自の洪水神話である『トレントレンとカイカイ』についても語っている (<13>) が、その内容にもキリスト教の影響がうかがえる。

この説話の記録されている最も古い17世紀の例の概要は、水を司る邪悪なヘビ・カイカイが人間たちを絶滅させるべく洪水を起こした際、丘に住む善良なヘビであるテンテン（トレントレン）が、増大する水の上にその丘を浮かせて少数の人間を救ったというもので、テンテンとカイカイという自然力を司る二体の神格の対立を軸とする善悪二元論的な世界観を反映していた。⁽¹⁰⁾

それに対し、エウダリアが語る現代のカイカイには、明らかにこれとは異質の特徴が見られる。すなわちこのカイカイは、絶対的な存在である神の意志に従属し、その命令で天候を司っているに過ぎない。つまり、カイカイが「黒い雄牛」を縛り付けたり解き放ったりすることが洪水や日照りの直接的な契機ではあるものの、カイカイのこうした行動は神の教えに反した人間に対する「罰」の現れであるという認識である。こうした認識には、明らかにキリスト教の「至高神」や「神罰」といった概念が反映されている。

また、もともとの神話の中では対立していた「トレントレン」と「カイカイ」の関係についても、雨天時にはこの両者が「夫婦 kurewen」のように「寄り添う chaumalei」ことによって、雨天を続行させる旨を語っている。換言すれば、少なくとも雨天の際にはむしろ両者が協力して「神意」を実行する関係にあることを意味する。この点も、古の神話に観察される両者の対立関係とは正反対のそれを示唆している。

一方、古の時代に起こった洪水に関する説明にも、より消極的な形ではあるがやはり本来の二元論とは異なる特徴が観察される。なぜなら、洪水時のトレントレンの働きについては基本的に上記と同様な内容が説明されているものの、カイカイについては言及されておらず、少なくとも積極的な意味での両者の対立構図は観察されないからである。

このようにメレヒルダの認識の中では、マプーチェの伝統的な神話に登場するアニミズム的な神格が、キリスト教の「至高神」を頂点とする新しい世界観の中で再編成されているといえる。

（3）「マプーチェのキリスト教」と「よそ者のキリスト教」

前節で見たように、メレヒルダの世界観にはキリスト教の影響が色濃く刻み込まれている。だが、一口にキリスト教といっても、彼女の認識の中では二つの傾向、すなわちカトリシズムとプロテスタントの一派エバンヘリスモとが明確に区別されている。

カトリック教会は、16世紀の征服期からマプーチェの間で布教活動を行ってきた。そして、19世紀末の「平定」以降体系的な布教活動を開始し、現在マプーチェの60%以上はカトリック教徒を自認するに到っている。⁽¹¹⁾ メレヒルダによれば、今日彼女の地元で活動するカトリックの神父たちは、マチを中心とするマプーチェのシャーマニズムの体系に対して寛容な態度を取っており、メレヒルダの方も、カトリシズムを伝統的なマプーチェのシャーマニズムと何ら矛盾しない存在と見なしている (<10>)。

それに対しエバンヘリスモは、より遅く軍事政権期の1970年代以降アラウカニア地域で急速に普及した。メレヒルダによれば、エバンヘリコの牧師たちはマプーチェのシャーマニズムに対して厳格な態度を取っている。マチのことを「悪魔 wekufü」あるいは「邪術師 kalku」と呼び、「(精神的な) 征服 conquista」を掲げるその論調は、まさに征服期に新大陸各地で活動した熱狂的なカトリック系布教師たちの姿を彷彿とさせる。こうした非寛容的な態度を取るエバンヘリスモのことを、メレヒルダは「ウィンカ (よそ者) の知識 winka ta ñi kimün」と表現し、完全に異質の存在と認識している (<11>)。

(4) マチの任命法、知識の修得法に関する多様性

最後に、メレヒルダの証言には、マチに関する従来の研究の中で「定説」とされてきたいくつかの主張の相対化を促すような具体的情報も含まれている。

第一にメレヒルダは、これまで「マチ召命」の必須要素としてしばしば指摘されてきた「ペリモントゥ (幻影) 体験」⁽¹²⁾ を否定している (<7>)。つまり彼女は、「ペリモントゥン体験」と「ベテランのマチによるその解釈」という手続きを「真正なマチ召命」の証しとは認めていないのである。

それに対し、自らが真正マチであることの唯一の根拠として彼女が挙げているのは、「夢」を通じての「天界での召命」の事実である。この点にも、前述したキリスト教の「至高神」概念の深い影響がうかがえる。

第二に、メレヒルダはみずからのマチとしての知識の修得方法に関して、これが「夢」および霊的存在の「憑依状態」において「神」から直接伝達されたものであることを強調する (<3>, <4>, <8>)。そしてその一方で、他のマチの力を借りたのはイニシエーション儀礼の際だけで、「治療に関する知識を習う (修行する)」という意味での援助ではなかった旨を指摘している (<8>)。

この点も、高い出費と長期にわたる修行とを特徴とする「熟練マチによる指導」をマチ・イニシエーション過程における必須要素と断定する定説⁽¹³⁾とは異なっている。だが筆者は、自らのイニシエーションに関するメレヒルダと同様の説明を、ルマコ区およびチョルチョル区という異なる地区に居住するそれぞれ1名のマチからも聴いている。

またメレヒルダは別の箇所、神への (正しい) 祈願の方法を知らないマチや、神による召命に依拠した真正な薬草の知識を持つのではない「成り上がり」マチの存在に触れ、その能力に懐疑の目を向けている (<1>, <3>, <6>) が、これらの指摘もおそらくこうした「修行型」マチを念頭に置いて行われているものと思われる。⁽¹⁴⁾

もちろん、メレヒルダの認識こそが正しいという意味ではない。そうではなく、これらの指摘は、マチの多様性を想定した上で、演繹的な断定や一部の事例に依拠した安易な一般化を慎み、個々のマチの認識を一つ一つ慎重に吸い上げて行こうとする、ごく当然の実証的態度が肝要であることを示している。

3. メレヒルダ・ウェンテラオの証言 (Testimonio de dona Merejilda Huentelao)

以下に掲載するメレヒルダの原語での証言のうち、スペイン語で表現されている部分については下線を付した。また、邦語訳の対応する部分についても同様である。

ただし、話者の中で「ホセ」とあるのは、メレヒルダの夫で儀礼において彼女の「マチ通訳 dungulmachife」を務めるホセ・カディン・ピチュン氏を指す。⁽¹⁵⁾

<1> Su iniciación como machi

Iñche ta machi ta tüfa. Iñche machingen, nien dieciseis años. Mari kayu tripantu nien. Machingen, kutranche ngen. Kutrancheyel.

Machi ta elkeeyu ta Dios wenu mapu. Wenu mapu ta elngekei che. Pu kalül reke ta ñi choyün, ta ñi ñuke elngekei ta machi. Machi ta angkantu machikelai. Kiñekentu feula fei ta ka kalewepukai lle mai. Chumngechi mudalewepui tripantu, ka felewepui. Femngechi ta femün ta iñche.

Peumakefun. Peumakefun. Pichi müten peumakefun. Püramngen wenu ñi peuma. Püramngen wenu, Palacio Dios mu powülngen. Feu mu anümelngen rewe tüfei. Chumngechi müleal rewe femngechi. Anülei rewe pu wenu. Anümngen fei meu. Mari pura wirin pontro mu anümngen. Fei pütrilei kultrun. Üngürkülei, mari epu kultrun. Rosaulei ta ñi chi kultrun, fei elungen. “Machingeaimi ta tüfa. 'Foyen rayü' pingeaimi ta mi machi üi” pingen ñi peuma.

Müngeltulaeneu ñi ñuke, ñi chau. Müngeltulaeneu. We pichi domo am iñche. Müna wengen. Fei ta felerpun ta tüfei. Felerpun.

Kutranchewün, datungen. Fei ta "machingeai" pieneu machi. Kuifike machi.

<2> Maimai Likan, la primera machi que hizo Dios

Elngei ta winkul, elngei ta mapu, elngei machi. Wentru machi elngei rangin wenu. Tüfeichi pichi wentru mai ñami lelfün meu pingei, foyentu mu. Werkeñ kuifi mülerkefui, ütarkerfui kullin. Fei ütarkelu kullin fei ta pürameyu.

Kesucristo petu miyawí, witrayawí tüfa mu, tüfachi mapu mu, we deulu mapu. Fei ta pengerumetui, pesangetui pingei. Naümpalawenkülei. "Fau mülei lawen, luku mu. " pingei. Rayülei. Fei ta elngei ta tüfeichi Maimai Likan ta ti pikei nga chumül.

Femngechi ta elngeiñ ta inchiñ. Amulepui ta machi nguillatualu, conversayalu ta tüfei.

< 3 > Mensaje que recibe de Dios en el sueño y en el trance

Fei ta trülai ta machi ka. Kiñekentu ta kimnguillatui, kiñekentu kimlai. Chau Dios pin. Dios tainei engu ta dungukelai. Pero mi Dios küme püllüngelu, küme fengelu, fei ta nütramkalkeeyu ta Dios. Küme piukengelu, fei ta nütramkaleyu. Peuma meu mai. Dios ta mülei tainei ta dungukelaeyu ta ti. Tüfa mu chei ta wütralei welu pelafiñ inchin, pu. Iñchiñ ta pelafiñ. Inei ta falen ta dungulaeyu ta naide ta tüfei.

Fei ta küimi ta machi, fei mu ta dungukei ta ti. Fei ta ñi werken, Dios ta ñi

werken. Fei ta dungupakei. Wülpakei dungu, chumlen, nütram. Wenu mapu chumleal, tuntentuleweal mongen mapu, tunten tripantui ñi mongeleweal, fei ta kom fei pikei.

Fei tüfa ta felei lle mai ta tüfa epe, wentelepai epu waranka tripantu. Epu waranka tripantu müleai mapu pi ta, medil ta Dios, pu, elfilu ta mapu. Epu waranka tripantu mongeai. Fenten alcanzaai che mai kam mongelaai pi. Fei ta tüfa fei mu ta pu kuñifall, fei ta tüfa ta fütä kalewepui. Chumlekei ta ellaka mu elngei, felewelai, pu, chacha. Fütä kaleputui. Fei ta tuntelewenon tripantu.

"Kümelele ta ñi pu choyün, küme nguillatulele, trür tripatraule, conjunto nguillatule, fei amuai tripantu. Küla pataka tripantu ka amuai tripantu." pi. "Mongeleai tripantu. Mongeleai mapu. Mongeleai ta che, mongeleai ta mapu." Femngechi fei pin mülei tüfa.

Fei mu ta femeketukei ta che. Fill püle ta mületui nguillatun. Winka meu, winka kütü ayütui. Santiago amukei, nguillatumekei che. Palacio gobierno mu kütü ta nguillatumekein ta ta. Kom nguillatuyaukei che. Fei ta ñi femtual pürapalu tripantu fei, kom ayütui. Winka kütü ayütui nguillatun.

<4> Lo que me enseña el espíritu mensajero de Dios

Kom kimken ta ñi chuchileal dungu. Kimken ta ñi püllü. Akui ta ñi püllü, espíritu pi ta winka. Fei ta kom fei pipakei, comentupakei dungu ta ñi chumlen, chumlen wenu mapu, tügaleal ta che, mawal, maunoal, ta ñi küme cosechayal, küme cosechanoal, kom fei pikei. Mawael tripantu, wefpachi tripantu, nguillatukein tüfa mu. Conversakein nguillatun mu. ... Chau Dios ñi werken ta ti. Fei ta eli ta tüfei ta, avisayalu.

"Ranguinielwe deya" pingei ta machi. "Ranguinielwe deya" pi ta wenu mapu. "Fei ta ñi kimam ta dungu, kimam ta nütram ta ñi nag mapu ta ñi pu choyün, chem dungu ta mülele ta tüfa meu, kom ta fei ta dalluyawalu." pi ta ti. Fei ta werken ta ti.

<5> La genealogía de la machi

[Autor] Ka antü mu eimi pimi ta "Maimai Likan" ka "Panchita Pancha". Inei ta ti feichi Panchita Pancha?

[Merejilda] Tüfeichi Panchita Pancha inche ñi familia. Fei inche ta ñi chuchu felen. İnchiñ machi küpanngelui pingei. İnche ta ñi kuku ta ñi chuchu tüfei, tüfeichi Panchita. Fei ta, fei machileyu ta chi Maimai Likan. Femngechi ta amulei machi, amulei.

<6> Diversidad de los machis actuales

Kakerumellei mai ta machi tie Machi lawenngeputulai. Re machi pūrai. Witrapūramekei kiñekentu. Fei ta kisu machi. İnchiñ ta femlaiñ. Fei ta pichilewei ta femngechi machi ta Chile mu. Pichilewei ta ti. Epe afi ta chi dungu. Epe afi ta chi ngülam.

Pichilewei femngechi machi. Kūmeke machi. Kūmeke machi, lawenngechi machi, fei ta kutran fill adkakafi. Fill kutran mu puwi. Fei ta tüfeichi machi pūralu ta fei ta femkalai ka. Fūcha kalei ta ñi kimün. Fūcha kalei ta ti.

<7> Yo no soy machi de “perimontun (visión)”

[Autor] Ka eimi petu machingenolu perimontuimi ⁽¹²⁾ ?

[Merejilda] Perimontulan iñche. Iñche wenu mapu müten elngen. Peuman müten.

[Autor] Ah, peuman müten?

[Merejilda] Peuman müten. Pelan filu ⁽¹⁶⁾. Pelan ta chem rume pelan. Chumaal, koilatuafui che. Pelan.

Wenu mapu müten. Re peuman müten. Mai. Pūramngen wenu. Fei müten ta ti. Fei mu ta machilngepatun naü mapu. Fei ta naümgepatulu iñche, fei ta ruka foyeñmangei ñi peuma. Pu foye deumangen, rangui foye. Tranantukunniegen fei mu. Kom kopiu ⁽¹⁷⁾ mai mülei, külkül ⁽¹⁸⁾. Kom añpe pingei ta tüfei. Kom elelungekei ta machi. Fei mu ta kūme machingekei. Fei. Femngechi femün ta iñche.

<8> El único Dios es el que me otorga el conocimiento medicinal

[Autor] Feichi Dios ta, inei pingei, "Chau Dios" kam kangelu üi ... ?

[Merejilda] "Chau Dios". Kiñe rumelei müten. Kiñelei müten ta iñ "Fūcha Chau" ka. Kiñelei müten ta iñ Chau lle mai. Kesucristo ta ñi chau ta tüfei, pu. Fei ta ñi eleteu. Kiñe elngefui müten ta Kesucristo ka. Kiñe choyün müten niei kafei.

[Autor] Entonces, eimi kom machi kimün eleleimeu ta Dios?

[Merejilda] Kom eleleneu.

[Autor] Peuman mu müten?

[Merejilda] Peuman mu müten. Ka püllü küpayüm, fei ta ñi chumngedakutranal, chumleal dungu, fei ta kom fei pikei ka. Chumngechi ñi dakutranal, chumngechi ñi mongelkutranal, kafei fei pikei, pu. "Tüfa lawen." pikei. "Feichi lawen mo mongeai." pikei. Femngechi ta ti.

[Autor] Ya. Peuma mu?

[Merejilda] Peuma meu ka akui datukutranayüm ka ka. Fei ta fei pikei.

[Autor] Entonces kangelu machi enseñal-laeimeu chem no rume?

[Merejilda] Femlaeneu ka. "Machilngen" müten. Mai. Machilngellen mai ta tüfa, naï mapu mu.

Fei ta, nielu ta tüfeichi peuma ta ñi püllü, fei ta kisutu ta elniei ta rakiduam ka.
[Autor] Ah, rakiduam?

[Merejilda] Mai. Kom naümnaüm elpaeneu, pu. Naümnaüm elpaeneu. "Kim piuke ngeimi. Kim rakiduam ngeimi. Kūme piuke ngeimi. Liü piuke, sanu piuke ngeimi." pieneu ta ti.

[Autor] Chau Dios?

[Merejilda] Chau Dios. "Fei mu ta nieaimi ta kūme rakiduam. Fei mu ta nieaimi ta kūme rūpü, kūme ta inanieaimi, mongentupiukeaimi, mongelafimi ta kutran." pingen ta ti. Femngechi ta elngekei ta machi, no? Femngechi ta elngekei ta ti.

<9> A través del sueño yo sabía que Ud. iba a venir a verme

[Merejilda] Mufü chi chei peuman. Müchaike peuman. Peumalen. Actualmente peumaken. Eimi ta mi akual kom kimnieyu ta ti.

[Autor] Ah, iñche ta ñi akual?

[Merejilda] Mai. Akual.

[Autor] Eimi kimimi?

[Merejilda] Mai. Kimün. Petu ume kimel-laeneu Kuan Carlu ⁽¹⁹⁾ kimün. "Küpayalu ta tüfa, nütramkalngepayaimi, üngümafimi." pingen ñi peuma ta ti.

[Autor] Ah, kimimu feichi dungu peuman mu.

[Jose] Sí. Kimiñ. (...)

[Merejilda] Mai. Chumngechi ta ñi küpayal ta kūme fe meu, chumngechi ta ñi küpayal ta weya rakiduam meu, kom kimkefiyu iñchuu.

[Autor] Iñche nieli wesa rakiduam, kimafuimün?

[Merejilda] Mai, kom kimafuyu ta ti. Mai. Kūme rakiduam ta miyawülimi, kintuyaulimi ta nütram. Eimi ta mi kūme kimal, fei ta mi fei pitual ta mi mapu meu, pu.

[Autor] ¿Ah, por eso?

[Merejilda] Mai fei mu lle mai chi.

[Autor] Ah. Ya. Kiñe ramtun, entonces. Wesa rakiduam niefuli ...

[Jose] Iñche kimafun.

[Autor] Ah, kimafuimi? Entonces nütramkalayafuimi tüfachi rüf dungu?

[Merejilda] Femlayafui, pu.

Fei mu lle mai ta elupiukeupeñ ta ti. Piuke reke nu am ta ñi wülngeken ta rakiduam, nütram, kūme nütram, kūme dungu. Fei ta ñi kimal ta pu kuñifall. Eimi ta mi kimpapeel tüfachi Chile mapu ta ñi nütram, Chile mapu ta ñi dungun, pu lonko, lonko machi. Pu machi ta nielu nütram, fei ta yeñmapafimi ta ti.

<10> Fui bautizada en la iglesia católica

[Autor] Entonces eimi ta bautizangeimi ta iglesia meu?

[Merejilda] Mai. Bautizangen iglesia católica.

[Autor] Fei ta Temulemu?

[Merejilda] Temulemu.

[Autor] Tuntan tripantu meu?

[Merejilda] Oh, iñche pichikan, pu. Pichikan. Kimüñmakemengen müten. Petu pichin. Fantepen. Famngechi bautizangen.

Tripapai curita, padre mülekefui kuifi. Fei ta tufa ta asistingewelai. Asistingewelai. Porque mülelu evangelio, asistingewelai. Üdengetui ta chi católico. Mai. Femngechi femtulaingün am chi? Feletui ta Chile.

[Autor] Welu eimi amukelaimi ta iglesia?

[Merejilda] Amuken iglesia mu.

[Autor] Sábado mu o domingo mu.

[Merejilda] Sábado mu, domingo mu. Mai. (...)

[Autor] Entonces nütramkakei pu padre?

[Merejilda] Nütramkakeingün ta ti.

[Autor] Chem pikei ta pagre machi meu, o machitun meu?

[Merejilda] "Kume dungu." pi. "Fei ta eli ta Dios." pipei.

<11> Los evangélicos nos califican de "wekufu (diablo) " y "kalku (hechicero) "

[Merejilda] Fei ta chem ta tufachi ka vangélico ta fei pilai ka. Fei pilai. Evangélico ta "Weyake", tüfei ta "wekufü ta chi pu machi." pi.

[Autor] Ah, "wekufü"?

[Merejilda] "Wekufü" pi. "Kalku" pi. Füta weluñmautukunuutui.

Pu mapuche ta evangélico ngetui lle mai chi. Kom evangélico ngetui. Konküleingün ta ti. Konkülei. Enseñal Diosfingün. "Conquista"lei ta chi pu ...

Fei mu ta rume wesa chumngechi ta konkei ta una polilla ta comunidad mu mapuche, femi. Pichillewei ta nguillatualu. Tüfa mu lle mai pichileiñ. Pütrefuiñ. Miyaullefui evangélico nga ti, fei ta charutulai rume, tulai rume. Mai. Mülefui evangélico. Kom mülepai ta ti. Konpai ka, pero ta nguillatun mu ta konkelai, pu. Ayilafi. Pun nguillatukeingün müten kisu engün. Ruka nguillatukeingün. Femngechi müten femkeingün.

Felewepui ta nütram nu am chi. Felewei ta Chile ta tufa. Fill püle am ta ñi felen fei ta fei reke lle mai ta nierkeimñn eimñn ta kompai kake mapu pimi ta ti. Femngechi kompai ta lle mai vangélico. Rupai kake mapu mu, küpai ta ti. "Winka ta ni kimün". "Winka ta ñi kimün". (...)

<12> Mütrümlonkon

[Autor] Kiñe ramtun. Entonces, eimi datualu, küpakei Dios ñi espíritu?

[Merejilda] Fei.

[Autor] Naü mapu?

[Merejilda] Naü mapu. Datukutranayüm küpakei.

Epu rume nien ta ti. Fei ta kiñe ... fütta newenma kutrankei. "Üñfitungekei" che. "Hacengekei mal" ⁽²⁰⁾ pin ta mülei. Fei ta fütta datungekei ka. Fütta newenmaungekei. Mai. "Mütrümlonkon" pingei ta ti.

[Autor] Chumngei ta "mütrümlonkon"?

[Merejilda] Eso fütta newentukei che, küdauei, pu. Fütta newentu küdaumangekei ta chi kutran.

Tüfa mu ta anümelngei foye, fei ta fütta newenmangekei. Newenmangekei, fei ta näüelngepatukei ta ñi cheu ta ñi nieñmangemum.

Aukantuñmangekei ta ñi püllü, ta ñi espíritu. Aukantukei, fei kutrancheukei. Too efecto konkei.

Weludumkei well. Femngechi fei ta tuñmatukeeyu ta pu espíritu del señor. Tuñmatukeeyu.

Fei tukulelgetukei kom. Fei mu ta mongetukei. Fei mu ta mongetukei. Femngechi femkeiñ ta iñche. Iñche ta femken ta ti.

[Autor] Feichi fütta datuwün mu ta konkei kiñe machi müten kam doi alün machi?

[Merejilda] Kiñe machi müten. Epu ..., nielu machil kai, fei ta kimelngealu, we machil ngei, fei ta tukungekei ka. We machi ngei.

[Autor] Ah, tukungekei ka. Ta ñi doi kimaal ta dungu?

[Merejilda] Doi kimaal. Tunte kimi, ka femaal. Ka tukimünalu ta ti. Tukimünalu.

[Autor] Ka feichi fütta datuwün mu ta konkei ta tralka nielu che?

[Merejilda] Mai. Tralka konkei. Konkei tralka, konkei lawen kom, niengekei. Kom lawen niengekei.

[Autor] Ka tunten kona konkei?

[Merejilda] Mari epu kona mülekei. Mütrümalu ka mülekei. Mütrümngeitukei ta ti. Üituütuyengekei. Mütrümngeitukei. Kiñe wentrü engu kiñe malen mütrümtukei.

Ka capitán ⁽²¹⁾, kona fei ta wichulei kafei ka. Fentren femngechi mülei.

[Autor] Welu capitán, chem dungu ... ?

[Merejilda] Fei ta cuchillo ta tuniekei. Mai. Tüfei ka carabinero ⁽²¹⁾ pingei ta ti, fei ta copetatualu ta ti. Tralkatualu. Tralkatualu. Femngechi elngekei ta femngelu.

[Autor] Welu kiñe solo carabinero, kam ... ?

[Merejilda] Epu. Meli capitán konael. Femngechi ta küdauei ta fachi mapu.

[Autor] Ka tunten capitán konkei?

[Merejilda] Meli mülekei. Meli capitán. Tuntan tanta abunda che, fei ta mülei ta

konatu rangin tukulei fei. Re kona müten. Mayor y menorkülei ta ti. Femkei.

[Autor] Tuntent mayor ka tuntent menor?

[Merejilda] Tuntent ta ñi trawi che ka. Meli, kechulei, doi. Doi mülelu mu fei ta kayu koni. Doi konkei konatun, pu.

[Autor] Ka "llañkañ" pingechi domo mülei?

[Merejilda] Llañkañ ka wichu. Epu llañkañ.

[Autor] Feichi epu domo?

[Merejilda] Mai. Epu domo, üllcha malen.

[Autor] Chemkei ... ?

[Merejilda] Fei ta tüfei llañkañgekei. Compañakei machi. Kellukei machi.

[Autor] Welu fei ta ta ñi üi ta kutran mütrümngekei?

[Merejilda] Fei ta üituüituyengekei ta ti. Üituüituyengekei. Mütrümmütrümmümangetukei.

Epe wün, lifkei wün fei ta librekei. Kiñe pun mekekei ta ti.

<13> El mito de "Tren Tren y Kai Kai"

[Autor] Eimi kimimi kiñe epeu o nütram, Tren Tren ka Kai Kai pingelu?

[Merejilda] Mai. Kai Kai ta tüfei ta mawülkei, pu. Mawülkei. Kai Kai niei toro, kurü toro. Trapelniengei ta kurü toro. Femnofule fei ta mauküleafui müten, pu.

Trapelngekei ta antütripantuayüm, fei ta castigueayüm ta naü mapu ta ñi küme cosechanoal. Fei ta culpai ta Chau Dios mu, fei ta femngekei ka. Fei ta maukelai.

Fei ta müñaayüm fei ta rume maukei tripantu. Tren Tren engu ta mülei tüfei, pu. Chaumalei, kurewen. Tren Tren engu.

Tren Tren fei ta montulkekekefui pingei kuifi antiko mu. Tremkei. Afayüm che fei ta, fei ta kisu tremkei, pu. Lemkelai ta lafken. Tripapai lafken pingei. Lemlai, pu. Kisu ta renenkiawi. Weyülkiawi ta Tren Tren. Tremkülei ta, pürami ta ñi pu choyñm.

Chuchi montulu ta, fei ta puulu, alcanzalu ta ñi pual, fei ta montui ka. Femnolu, fei ta montulai, pu. Itrofill üñüm konkei pingei, puukei pingei. Fill üñüm puukei. Fei ta awantalu fei ta mongei ka. Awantanolu fei ta mongelai. Pichi piukengelu, miyaulen tungelu fei ta mongelai, pu.

Femngechi femkei fei ta Tren Tren.

[José] Fei ta puwi ta kom ta filu, distintos formas ta sabantijas ta puwi, pu.

[Merejilda] Filu, pájaro. Fill am ta mülelu ta mapu mu, winkul mu, mapu mu ta elngelu. Elngei filu, fillkuñ, palüm, dewü.

[José] Llukalu pichi puupelu fei ta perdei, pu. Muere.

[Merejilda] Kurautukei pingei. Kuraukei pingei.

[Autor] Ah, kuraukei?

[Merejilda] Kuraukei. Fei ta llükalu ta ti.

[Autor] Y tunten che ta montui?

[Merejilda] Tunten che ta ñi montual montui. Ka dituditungekei wenu mu pingei, wenu engu ta chi Tren Tren. Dituditungei. (...)

<14> También los médicos winkas nos mandan a sus pacientes

[Autor] Tunten tripantu meu ta küpai machi meu ta winka kutran, winka chileno kutranlu? Tunten tripantu meu?

[José] Iñchiñ mu ta tufa mu ta casi gringos, gringas ⁽²²⁾, akukei. Viene de todos los Akukei Argentina aquí llegan kutranlu. Santiago, Concepción, todos hacia allá, Temuco.

[Autor] ¿Como hace cuántos años que empezaron a venir también los winka kutran, no solamente mapuches?

[José] Más o menos, como hablemos de veinte años. Por ahí. O sea que cuando empezó la machi müten. Hablemos ahí. Wecheke, pichike winka, kom. Mongentukunefiyu.

Y lo mismo doctores winkas, los médicos, mandaleyumu ta iñchiñ ta

[Autor] ¿Los mismos médicos?

[José] Los mismos médicos los mandaban a nosotros. (...) "Vayan aonde nosotros. No vamos a ser capaz. Porque usted está kalkutungeinmün, wekufütungeinmün, üñfitungeimün. Nosotros médicos no. No somos capaz. Vaiga a aonde la señora Merejilda Huentelao. " Así.

[Autor] Inei pingei feichi médico, por ejemplo, kiñe ... ?

[José] Aquí había un médico, éste ..., muchos doctores, pu. De regimiento, fei médicos, deutores. Unda pingei kiñe.

<1> マチとしての召命

「メレヒルダ」わしは今マチをしておる。わしがマチになったのは16歳の時じゃ。16歳の時じゃった。マチになり、病人になった。わしは病気の身で過ごしたのだ。

マチというものは神が天界でお創りになる。人は天界で創られるものだ。子孫たち（人々）の体のようなもの、母親としてマチは造られる。マチというものは、何もない空（くう）からマチになるのではない。今では時に違う事になってしまうこともあるがな。年月が移り変わってしまうように、そんな風になってしまったのだ。そんな風にしてわしはそうした（マチになった）のだ。

夢を見ておった。夢を見ていたのだ。時々だが夢を見ていた。で、わしは夢で天界に上げられた。天界に上げられ、神の宮殿へ連れて行かれたのだ。そこで、わしのためにレウエが

植えられたのだ。（地上界で）レウエが植えられるのと同じようにな。天界にもレウエが植えられておる。それからわしは座らされた。染め模様の入った18枚の毛布の上に座らせられたのだ。それから、たくさんのクルトゥルンがあった。ふんだんにあった、12ものクルトゥルンがな。そのわしのクルトゥルンはバラ色をしておって、それをわしは与えられた。『お前はマチになるのだよ。お前のマチ名は「フォイェン・ラユ（花開いたフォイエ）」という。』、そうわしは夢で告げられたのだ。

わしの母もわしの父も、わしの話信じなかった。わしの言うことを信じようとはせなんだ。わしはほんの小さな娘だった。何と辛かったことじゃろう。それで、しばらくの間そのままだった。そんな風なままだったのだよ。

わしは病人になり、（あるマチの）治療を受けた。すると、そのマチは「（この娘は）マチになるだろう」とわしに言ったのだ。昔のマチたちがな。

＜2＞神が造った初代マチ、マイマイ・リカン

丘が造られ、大地が造られ、マチが創られた。男のマチが天界の真ん中で創られたのだ。この小さな男の子は、野原の中で迷ったそうだと、フォイエ原でな。むかしはお使いの仕事があつて、家畜の番をしていたそうだと、で、家畜の番をしておる時にな、（天界に）上げられたのだ。

ちょうどケスクリスト（イエスキリスト）がおった、ここに、この地上に身を置いていた、大地が造られて間もない頃じゃった。それで、それで突然発見され、見つけられたのだそうだと。それで（その者のもとに）葉草が降ってきてな。『ここに葉草がある、膝元のところだよ。』と言われたという。（その葉草は）花開いていた。こうしてある時そのマイマイ・リカンという者が創られたという。

そんな風にして我々は創られた。今までマチは続いてきたのだ、（神に）祈願するため、（神と）会話するためにな。

＜3＞夢と憑依状態における神のお告げ

だがまた、マチといっても皆同じではない。時に祈願する術を知っているものもおれば、また時に知らんものもおる。父なる神の御言葉をな。神は誰ともお話されるというわけではない。だがわが神はよい魂の持ち主、よい信心の持ち主には（使者霊を通じて）話しかけられるのだ、神はな。よい心の持ち主にはな、そうした者には（使者霊を通じて）話かけられる。夢でな。神はおられるが、誰にでも話しかけられるわけではない。あるいはここに立っておられるかも知れんが、我々には見ることができんだ、な。我々には見えん。誰にも、こんな状態では誰にも話しかけはせんのだ。

だがマチが（使者霊に）憑かれた時、その時に話されるのだ。それ（使者霊）はその方のお使い、神の使者じゃよ。そうして話される。事を残される、どうなっているかとか、そう

したお話をな。天界がどうなるのか、地上界があとどの位生き残るのか、あと何年生き続けられるのか、そうした事を全て告げられるのだ。

それで、今どうなっているかという、もうほとんど、二千年が近づいて来ておる。この世界は二千年の間存在するであろうと言われた、定められたのだ、神はな、大地をお造りになった時にじゃ。二千年の間だけ生き延びる。その間だけは人は生き続けるかも知れんし、あるいは生き永らえることはないかも知れぬ、と言われたのだ。それで今では、そういうわけで哀れな者たちは、それで、今ではとても変わり果ててしまった。造られて間もない頃の有様から比べて、変わり果ててしまったのだよ、あんた。あまりにも変わり果ててしまった。それで、もう何年も生き延びることはないのだ。

「子孫たちが正しく振る舞っておれば、立派にお祈りを行っておれば、皆がそろって祈りに集まれば、一丸となって祈れば、そうすれば月日は続くだろう。あと300年は月日が続くだろう。」と言われたのだ。「月日はもっと生きていられるだろう。大地はもっと生きていられるだろう。人は生きていられるだろう、大地は生きていられるだろう。」今では、そういうお言葉があるのだよ。

それで人々はそんな風にするようになっておる。今ではあらゆるところで「ギジャトウン（マプーチェの祈願儀礼）」が行われるようになった。ウィンカの間でも、ウィンカまでもが好むようになったのだ。（マプーチェたち）はサンティアゴに行き、祈願を行っておる。わしらは政府の宮殿ですらも祈願を行うのだよ。皆が祈願を行っておる、人々がな。それで新年の時にそうすることになり、皆が好むようになった。ウィンカ（ヨーロッパ系チリ人）たちですらギジャトウンを好むようになったのだ。

＜4＞神の使者霊が教えてくれること

わしはあらゆる事がどうなるのかを知る。わしの霊（使者霊）によって知るのだ。わしの霊がやって来る、ウィンカが言うところのエスピリトゥ（靈魂）がな。それで（その霊が）あらゆることを告げ、説明するのだ、事がどうなっておるのか、天界はどんな状態か、人々が平穩に暮らせるのか、雨が降るのか、雨が降らないのか、いい収穫があるのか、いい収穫にはならないのか、あらゆることを告げる。一年の始めには、その年に雨が降るかどうかわかるために、われわれは祈願を行う。祈願儀礼の場で（降りた魂と）対話するわけじゃよ。…（それは）父なる神の使者じゃ。で、その方（神）がそのもの（使者霊）をお造りになったのだ、知らせるためにな。

マチは『仲介役の妹』とよばれるのだ。『仲介役の妹』と天界では言うのだ。「それは事の次第を知らせるため、下界の子孫だちにお話を知らせるために、この地でどんなことが起こる時でも、あらゆる事を告げるためなのだよ。」と、そう言うのだ。その使者がな。

＜5＞一族のマチ系譜

「筆者」先日、あなたは『マイマイ・リカン』と『パンチータ・パンチャ』と言われました。その『パンチータ・パンチャ』っていうのは誰なんですか。

「メレヒルダ」その『パンチータ・パンチャ』はわしの家系の者じゃ。そのわしの母方祖母がそう（マチ）だったのだ。わしらはマチの家系だったと言われておる。わしの父方祖母の母方祖母がその人、そのパンチータじゃ。それで、その人をマチにしたのがマイマイ・リカンじゃ。そんな風にしてマチは続いて行っておる、続いているのじゃよ。

＜6＞真正マチと擬製マチ

マチと言ってもいろんなものがあるようになったがな…。今ではマチは薬草（の真正な知識）を持たないようになってしまった。ただ勝手にマチに成り上がる。時には自分で成り上がるものもある。それは自前のマチじゃ。わしらはそうではない。で、チリにはそうしたマチは少なくなった。少しだけになってしまったのだ。事（正統なマチの存在）はほとんど死滅してしまった。（正しい）知恵はほとんど死滅してしまったのだよ。

そういうマチは少なくなってしまった。すぐれたマチはな。良いマチ、薬草を持ったマチ、そうした者は病気なら何でも治せる。あらゆる病気を扱える。だが、そうした成り上がりマチはそうすることはできん。その者たちの知識はとても違うものだ。とても違うものになってしまっておる。

＜7＞わしはペリモントウン（幻影）のマチではない

「筆者」それからあなたはマチになる前、ペリモントウ（幻影）⁽¹²⁾ は見られたのですか。

「メレヒルダ」わしはペリモントウなど見ておらん。わしはただ天界で（マチに）仕立てられたただけなのだ。夢を見ただけじゃ。

「筆者」ああ、夢を見ただけなんですか。

「メレヒルダ」夢を見ただけじゃ。わしはヘビ⁽¹⁶⁾ など見てはおらんし、何も見てはおらん、見てなどおらんのだ。何のためなんじゃろう、人は嘘をつくものなのかのう。わしは見ておらん。

天界だけ。ただ夢を見ただけじゃ。ああ。わしは天界に連れ上げられた。それだけじゃよ。それから、ここ下界でマチにされたのだ。で、わしは下界に降ろされて、家をフォイエだらけにされた、夢でな。わしはフォイエの中で（マチに）仕立てられた、フォイエに囲まれてな。そこに横たわられたのだ。一面にコピウエの花⁽¹⁷⁾ があった。クルクル⁽¹⁸⁾ もな。アニュペというやつ（植物）も一面にな。マチは全てを与えられる。それで立派なマチとなるのだ。そう。わしはそんな風にしてそうなったのだ。

＜8＞マチの知識を与えてくれる唯一の神

「筆者」その神、何と言いましたっけ、「父なる神」ですか、それとも他の名前が…。

「メレヒルダ」「父なる神」じゃ。お一人おられるだけじゃ。我々の「偉大なる父」は1人いるだけじゃ。我々の父はただ1人だけなのだよ。その方はケスクリストの父じゃよ、うん。（ケスクリストは）その方（父なる神）がお創りになったものだ。ケスクリストもたった一人創られたのだ。やはり、（父なる神には）子供はただ一人いるだけなのだ。

「筆者」それじゃ、あなたは全てのマチに関わる知識を神から与えられたのですか。

「メレヒルダ」全てを与えられたのだ。

「筆者」夢だけでですか。

「メレヒルダ」夢でだけだ。それに霊がやって来た時にな、どのように（病人を）治療したらよいか、（病人の症状が）どうなるのか、そうしたことも全て告げる。また、どのように治療したらいいか、どのようにしたら病人を生かすことができるか、そうしたこともな、告げるのじゃよ、うん。『この薬草だよ。』と言ってな。『その薬草で治るはずだ。』と言ってな。そんな具合なのだよ。

「筆者」なるほど。夢でね。

「メレヒルダ」夢で、それから患者に儀礼治療を施す時に（霊が）やって来る。その時にそう告げるのだ。

「筆者」それでは、他のマチはあなたに何も教えてはいないのですか。

「メレヒルダ」わしはそうされてはおらん。『マチにしてもらった』（マチとしてお披露目してもらった）だけじゃ。ああ。『マチにしてもらった』のだ、ここ、下界でな。

で、その夢にわしの（マチ）霊が現れる時に、（その霊が）一人で考えを授けてくれるのだ。

「筆者」ああ、考えをですか。

「メレヒルダ」ああ。全てをわしに（天から）下賜して下さったのだよ、うん。わしに下賜してくれた。『お前は賢い心を持っておる。深い考えを持っておる。立派な心を持っておる。きれいな心を、健善な心を持っておる。』とわしに言ってな。

「筆者」父なる神がですか。

「メレヒルダ」父なる神がじゃ。『だからおまえは正しい考えを持つことができる。だからお前は良き道を定め、立派に進んで行け、感じやすい心でいられ、病人を治すことができるはずじゃ。』と、そうわしは言われたのだよ。そんな風にしてマチは創られるのだ、な。そんな風に創られるのだよ。

＜9＞あんたが来ることも夢で知っていた

「メレヒルダ」わしは何度だったか夢を見た。わしはしょっちゅう夢を見てきた。今でも夢を見ておる。今も夢を見る。あんたがやって来ることも何もかもわれわれ二人は知っておった。

「筆者」ほう、私がやって来ることをですか。

「メレヒルダ」ああ、やって来ることをな。

「筆者」あなたは知っていたと。

「メレヒルダ」ああ、わしは知っておった。まだクアン・カルル⁽¹⁹⁾がわしに教えるまえに、知っていたのだ。『(あの者が)ここにやって来て、話かけられるから、あの者を待っていないさい。』と、そうわしは夢で言われたのだよ。

「筆者」ほう、あなた方二人はその事を夢で見て知っていたんですか。

「ホセ」ああ。我々は知っていたよ。(…)

「メレヒルダ」そう。人がどんな風によい信心を抱いて来るのか、いかに悪い考えを抱いて来るのか、わしらにはすべてお見通しなのだよ。

「筆者」わたしが悪い考えを持っていたとしたら、あなた方にはわかってしまうと。

「メレヒルダ」ああ。すべてわしら二人にはわかってしまうじゃろう。ああ。あんたは正しい考えを抱いて、話を求めている。あんたが正しく知るため、そして言われた通りにあんたの土地で話をするため（に来ていること）にな、うん。

「筆者」ああ、だからですか。

「メレヒルダ」ああ、そうだからじゃよ。

「筆者」ああ。そうだ。では、一つ質問なんですが。もしわたしが悪い考えを持っていたとしたら…。

「ホセ」わしにはそうだとわかってしまうだろうよ。

「筆者」ああ、あなたにはわかってしまうと。そうならば、あなたはこの本当の事を話そうとはしないと。

「メレヒルダ」(彼＝自分の夫は) そんなことはしないだろうよ。

だから、わしらはあんたに心を渡しているようなものなのだよ。心と同じようなものとして他人に託すものじゃないかね、考えは、話は、正しい話は、正しい知識はな。それは、哀れな者たち（一般の人たち）に知ってもらうためじゃ。あんたに知ってもらうためじゃよ、このチリの地の話を、チリの地の言葉を、ロンコ（首長、神）たち、ロンコ・マチ（筆頭シャーマン）の話をな。マチたちはいろいろ話を知っておるので、それをあんたは覚えて帰るのだからな。

<10>わしは教会で洗礼を受けたカトリック

「著者」それでは、あなたは教会で洗礼を受けたのですか。

「メレヒルダ」ああ。カトリックの教会で洗礼を受けたのだ。

「筆者」それはテムレムですか。

「メレヒルダ」テムレムじゃ。

「筆者」何年前ですか。

「メレヒルダ」おお、わしが小さかった頃じゃよ、うん。幼い時じゃ。あとでそう教えられ

ただけじゃ。また幼かった。これくらいの時じゃろう。わしはそんな風に洗礼されたのだ。

坊さんが出てきてな、むかしは神父がおったのだ。だが、今ではもうやっでは来んようになった。もうやっでは来んのだ。というのはエバンヘリオがおるのではな、もうやっでは来んのだ。カトリコ（の神父）は嫌われるようになった。ああ。そんな風なので、もうそうせんようになったのではないかな。チリはそんな風になってしまったのだよ。

「筆者」でもあなたは教会には行かないんですか。

「メレヒルダ」わしは教会に行く。

「筆者」土曜ですか、それとも日曜に。

「メレヒルダ」土曜や日曜にな。ああ。（…）

「筆者」それで神父たちが話をするわけですか。

「メレヒルダ」彼らは話をするのだよ。

「筆者」（カトリックの）神父はマチについて、あるいはマチトゥンについて何と言っているのですか。

「メレヒルダ」『いいことだ。』と言う。『それは神がお造りになったものだ。』と言うのだよ。

<11>エバンヘリオたちはわしらのことを「悪魔」、「邪術師」と呼ぶ

だが何だ、このバンヘリオの連中はそうは言わん。そうは言わんのだ。エバンヘリオは『マチどもは邪悪な』、その『ウェクフ（悪魔）だ。』と吹聴するのだよ。

「筆者」ああ、『ウェクフ』ですか。

「メレヒルダ」『ウェクフだ。』と言う。『カルク（邪術師）だ。』と言うのだ。とんでもない誤りを犯しているものじゃよ。

マプーチェたちはエバンヘリオになってしまった。みんなエバンヘリオになってしまったのだ。入り込んでしまった。入り込んでしまっておる。「神の教え」というやつを吹聴したのだ。「征服」されてしまっておる、その…。

それでとてもひどく、一匹の衣魚がマプーチェの共同体に入り込むように、そんな風に入り込んだのだ。ギジャトゥン（祈願儀礼）を行うものは少なくなった。今ではわしら少数のものになってしまった。前はたくさんおったのにな。エバンヘリオが入り込んだので、器の捧げものすらせん、手に取ることもすらせん。うん。前からエバンヘリオはおった。あらゆるものがおった。彼ら（エバンヘリオ）も（儀礼の場所に）入ってはおったが、だがギジャトゥンの儀礼には参加しようとはせんのだよ。それを良しとはしない。あのものたちは夜祈るだけじゃ。家の中で祈る。そんな風にするだけじゃよ。

まあ話はそんなところではないかの。チリは今ではそんなことになった。あらゆるところでそうっておるのと同じで、あんたがたんとこにもあると、他の土地から（宗教が）入り込んだとあんたは言ったな。同じようにバンヘリオは入って来たのだ。他のところを通して、やって来たのだよ。『ウィンカの知識』がな。『ウィンカの知識』じゃよ。

<12>『呼頭術』治療

「筆者」一つ質問なんですが、それでは、あなたが儀礼治療をやろうとすると、神の魂がやって来るのですか。

「メレヒルダ」その方じゃ。

「筆者」下界にですか。

「メレヒルダ」下界にな。儀礼治療をやろうとする際にやって来るのだ。

わし（の治療）には二つの種類があつてな。それで一つは…、ひどく強い力で病気にかかる。人は（他の者に）『害される』ことがある。『邪術をかけられる』⁽²⁰⁾という言い方をする。その時には（患者は）大がかりな治療を受ける。大きな力を施される。ああ、『呼頭術』というのだよ。

「筆者」どのようなものなのですか、『呼頭術』というのは。

「メレヒルダ」それは、人々が大きな気力を込めて事を運ぶのだよ、うん。その患者は大いに気力を込めて治療されるのだ。

ここに（患者のために）フォイエの木を植えてな、で大いなる気（エネルギー）を込められるのだ。気を込められ、それで（邪術を）掛けられているところに気を降ろさせるのだ。

その者の魂、その者の靈魂は（邪術師に）攻撃を仕掛けられる。（邪術師が）攻撃するので、人は病人になる。あらゆる効果が入り込む。時には頭がおかしくなる。そんな風にしてその男性の魂を奪う。その者から奪ってしまうのだよ。

それで、その者にあらゆるものを戻してやる。それで生き返る。それで生き返るのだ。そんな風にしておる、わしはな。わしはそんな風にするのだよ。

「筆者」その大がかりな治療に参加するのは1人のマチだけですか、それとももっと多くのマチが。

「メレヒルダ」一人のマチだけじゃ。二人…、マチ弟子がいる時には、教えるためにな、新米のマチ弟子の場合はな、その者も参加させる。新米のマチをな。

「筆者」ああ、その者も参加させると。事の次第をもっと覚えさせるためにですか。

「メレヒルダ」もっと覚えさせるためじゃ。どの程度知っておっても、さらにそうさせるためにな。さらに知識を付けるためにな。知識を付けるためじゃよ。

「筆者」それからその大きな治療には鉄砲を持った人は参加するんですか。

「メレヒルダ」ああ。鉄砲（係）は参加する。鉄砲（係）が参加し、薬草とかあらゆるものが使われる、そろえられる。あらゆる薬草をそろえるのだ。

「筆者」それからコナ（助っ人）は何人参加するんですか。

「メレヒルダ」12人のコナがおる。『呼び係』もおる。（患者は）呼ばれるのだよ。（患者の）名前が呼ばれる。呼ばれるのじゃ。一人の男と一人の娘が呼ぶのだよ。

それから、カピタン⁽²¹⁾やコナもそれぞれ別におる。多くのものが、そんな風に参加するのだよ。

「筆者」でもカピタンはどんな事を…。

「メレヒルダ」その者はナイフを扱うのだ。ああ。その、またカラビネーロ⁽²¹⁾ というが、その者はコペータ (猟銃) を撃つ係じゃよ。銃を撃つ係。銃を撃つ係じゃ。そんな風に決められておる、そんな風にされるのだ。

「筆者」でもカラビネーロは一人だけですか、それとも…

「メレヒルダ」二人じゃ。カピタンは四人が参加する。当地ではそんな風に事を運ぶ。

「筆者」それから何人のカピタンが参加するんですか。

「メレヒルダ」四人が参加する。四人のカピタンじゃ。どんなに人がたくさんおる時は、コナとして半分ずつに分けて参加させる。ただのコナとしてな。マヨール (大) とメノール (小) に分ける。そんな風にするのだよ。

「筆者」マヨールは何人でメノールは何人ですか。

「メレヒルダ」それも、何人でも人が集まっただけじゃ。四人、五人であることも、もっと多いこともな。もっとおる時には六人が入る。もっと多くのものがコナとして参加する、ああ。

「筆者」それから『ジャンカン』ていう女の人もいるんですか。

「メレヒルダ」ジャンカンもまた別じゃ。二人のジャンカンがな。

「筆者」その二人は女性ですか。

「メレヒルダ」ああ。二人の女、若い娘じゃ。

「筆者」何をするんですか…。

「メレヒルダ」その者たちはジャンカンとして働く。マチに付き添う。マチを手伝うのだ。

「筆者」でもそれじゃ、病人は自分の名前を呼ばれるんですね。

「メレヒルダ」何度も名前を呼ばれるのだ。繰り返し名前を呼ばれる。何度も名前を呼ばれるのだよ。

ほとんど朝、朝が白んで来たところで、お開きとなる。一晩かかって事を運ぶのだよ。

<13>トレントレンとカイカイの神話

「筆者」あなたはある話、あるいは説話で『トレントレンとカイカイ』というのを知っていますか。

「メレヒルダ」ああ。カイカイ、それは雨を降らせるのだ、うん。雨を降らせる。カイカイは雄牛を持っておる、黒い雄牛じゃ。黒い雄牛を縛りつけておる。もしそうしなければ雨が降り続くだけになってしまうだろうよ。

日照りの年になるようにと (黒い雄牛を) 縛り付ける、それは罰するため、下界でいい収穫にならないようにするためじゃ。それで、父なる神の前で罪を犯したので、それでそういうことになるのだよ。それで雨が降らんのだ。

だが (雄牛を) 解き放つことにするとだな、とても雨がちの年になる。その時には (雄牛は) トレントレンと一緒にいるのだ、うん。寄り添っているのだ、夫婦のようにな。トレントレンと共にな。

トレントレンはかつて、昔人を助けていたそうじゃよ。延びてな。人間が死滅するという

ことになって、それでそれ（トレントレンの丘）は大きくなったのだよ。海はこれを持ち上げることはない。海の水が氾濫したそうだと。（海はトレントレンを）持ち上げなかったのだよ。トレントレンは自分で浮かんだ。トレントレンは泳いだのだ。上の方に伸びて行って子孫たちを持ち上げたのだ。

助かったものは、たどり着いたもの、到達するに到ったものはなかった。そうしなかったものはな、助からなかったのだよ。あらゆる小鳥が入って行くのだという、やって来るのだという。あらゆる小鳥がたどり着くのだとな。それで耐え切ったもの、それは生きのびた。耐えられなかったもの、それは生きのびなかったのだ、ああ。心臓の小さいもの、向かう途中で（洪水に）襲われたものは生き延びられなかったのだよ。トレントレンはそんな風にしたのだ。

「ホセ」それであらゆるもの、ヘビ、いろんな形の虫たちがたどり着いたのだよ。

「メレヒルダ」ヘビや小鳥がな。大地に、丘におった、大地の上に創られたあらゆるものじゃ。ヘビが、小さなトカゲが、毛虫が、トカゲが、ネズミが創られたのだ。

「ホセ」恐れをなしたものの、少ししか到達しなかったもの、それは失われたのだよ。死んだのだ。

「メレヒルダ」石になったそうだと。石になったと言われておる。

「筆者」ああ、石になったと。

「メレヒルダ」石になった。それは恐れたからじゃ。

「筆者」で、何人の人が助かったのですか。

「メレヒルダ」何人でも助かるべきものは助かったのだ。で、（トレントレンは）ついに天にまで達したそうだと、天とトレントレンとが一緒になったと。到達したのだとな。（…）

<14>メレヒルダに患者を回すウィンカ医師

「筆者」何年前からマチのところにウィンカの患者、ウィンカ、チリ人の患者もやって来るようになったのですか。何年前から。

「ホセ」わしらのところに今では、ほとんどグリーンゴやグリーンガ⁽¹²⁾がやってくる。あらゆる…から来る。ここにはアルゼンチンから病人がやって来る。サンティアゴ、コンセプシオンとか、すべてのものがあっちの方からな、テムコとか。

「筆者」大体何年位前からウィンカの患者もやって来るようになったんですか、マプーチェだけではなく。

「ホセ」大体、まあ20年と言っておこう。そのあたりからじゃ。つまり、マチが始まったその時からということじゃ。その頃からと言っておこう。若いものも、若いウィンカも皆がな。それらの者をわしらは治す。

それに他ならぬウィンカの医師たち、医者たちがわしらんとここに送ってよこすのだ…。

「筆者」他ならぬ医者たちがですか。

「ホセ」他ならぬ医者たちがわしらのところに回してよこしていたのだ。（…）『わしらのと

ころに行きなさいと。わたしたちには治せない。なぜなら、あなたはカルク病に、ウェクフ病にかかっている、邪術病にかかっているのだから。われわれ医師には無理だ。われわれにはできん。メレヒルダ・ウェンテラオさんのところに行きなさい。』そんな風にな。

「筆者」何という名前でしたか、その医師は、例えば一人…

「ホセ」この地には1人の医師がおった、ええと…、たくさんの（そういう）医師がな、うん。軍付きのもの、そうした医者たち、先生たちがな。1人はウンダという名じゃった。

注

- (1) 土地闘争の背景とテムレムの事例に関しては、千葉 (2000年) 参照。
- (2) こうした医療の分野における分業については、千葉 (1998年) : 147-202. 参照。
- (3) 唯一の例外は、マチのマプーチェ語による祈祷の文句を原語で採録したアロンケオの研究 (Alonqueo [1979]) である。だが同著に併記されたスペイン語対訳は、著者の手で「正統カトリシズム的」に「解釈」され、大幅な創作を含んだものとなっている。したがってマプーチェ語を解さない読者には多大な誤解を生む可能性が高い。一方、近年モンテシーノが発表したあるマチの証言記録は意義深い、完全にスペイン語訳だけの形となっている。(Montecino [1999])
- (4) Titiev : 117-118. Faron [1997] : 139-143. Montecino y Conejeros : 18.
- (5) 筆者が懸念にしている、トライゲン区に隣接するルマコ区のあるマチの場合も、彼女に憑依する3体の神格が彼女のことを「男性から見た妹」(deya)、彼女の通訳を務める夫のことを「男性から見た義理の弟」(ngillañ) と呼んでおり、やはりこれらの神格とマチの間に同様の親族関係が想定されていることを示唆している。千葉 (1998) : 168-169.
- (6) この種の作業の具体例としては、千葉 (1998) : 176-179. 参照。
- (7) 同様の主旨で出版したマチの証言に千葉 (1998)、千葉 (1999) がある。
- (8) Cooper : 750. Montecinos y Conejeros : 18. Foerster : 103.
- (9) なおこの指摘は、初代マチのマイマイリカンが男性であったのに対し、マイマイリカンの手でマチに仕立てられたパンチータが女性であったことを意味しているが、このことは、従来の研究で議論されてきた「男性優位から女性優位へ」というマチの歴史的性別変化の問題に対応するマチ自身の認識の1例としても興味深い。(注 (4) 参照。)
- (10) Rosales, I : 27-30.
- (11) 1992年の国勢調査によれば、トライゲン区が位置するマジェーコ州に住むマプーチェのうち、カトリック教徒は65.36%、エバンヘリコも26.93%に達している [INE y Sur : 80]。
- (12) Faron [1997] : 130. Alonqueo : 157. Montecino : 66-67. 筆者が懸念にしているルマコ区在住のある女性マチも、3つの幻影霊との遭遇が自らのマチ任命の重要な契機である旨を語っている (千葉 (1998) : 238)。
- (13) Titiev : 119-120. Hilger : 113-114. Faron [1968] : 78-80. Faron [1997] : 128-129.
- (14) だがメレヒルダは、邪術治療に関する発言の中で自らの「マチ弟子 machil」の存在に触れ、知識を増進させるのために治療を手伝わせるといふ旨を述べている (<12>)。一見上の発言に矛盾するようなこの指摘をどう考えたらいいだろうか。
神から知識を直接伝授された「正統マチ」であるメレヒルダのもとで知識を習得するのであれば、それは正統な知識であるということなのか。あるいは、「修行」で習うのは付随的な事項のみであり、本質的な能力や知識はあくまでも神から夢や憑依などの方法で伝授されるということなのか。この点については、次回の調査で明らかにしたい。
- (15) テムレム共同体の土地闘争に関するホセの証言は千葉 (2000年) 参照。
- (16) ルマコ区のレニーコ・チコ共同体に居住するある女性マチは、ヘビの幻影霊が自分の守護霊の一つであると語っている。(筆者の1999年度フィールド調査のデータ)

- (17) 「コピウェ」 チリ南部原産の植物で、チリの国花にも指定されている。
- (18) 「クルクル」 チリ原産のシダ科植物。
- (19) 「クアン・カルル」 テムレム共同体診療所医療補助員ファン・カルロス氏のこと。
- (20) ここでメレヒルダは意図的に、スペイン語の「邪術をかける hacer mal」という動詞句表現をマプーチェ語動詞の語幹として用いている。これは、今日、マプーチェだけではなくヨーロッパ系チリ人の間でも同様に邪術が実践されている事実を示唆している。実際、彼女のもとを訪れる患者の多くは邪術をかけられた白人系の患者である。
- (21) 「カピタン capitán」、「カラビネーロ carabinero」 いずれもスペイン語で、原義は「隊長」、「警察官」。この他、「ナイフ」、「鉄砲」など、現代のマチ治療儀礼には、本来ウィンカの軍事・警察職や武器に関わる様々なスペイン語名称が導入されている。
- (22) 「グリンゴ、グリング」 チリのヨーロッパ系住民の中でも、特に金髪や青い眼などゲルマン系の風貌をした人々を指す。

5. 参考資料

（１）音声資料（現地録音MD）

Huentelao, Merejilda y Cadín, José, *Testimonio*, Comunidad de La Unión Temulemu Grande, Comuna de Traiguén, No.1～3: 10 de agosto de 1999.

（２）文献資料

Alonqueo, Martín, *Instituciones religiosas del pueblo mapuche*, Santiago, Ediciones Nueva Universidad, 1979.

千葉泉、『馬に乗ったマプーチェの神々ーチリ先住民文化の変遷ー』、大阪外国語大学学術研究双書19号、平成10年（1998年2月27日）、218 p。

CHIBA, Izumi, “Testimonio de machis : Lumaco (1) - Caso de doña Eudalia Raimán -”, en *Journal of Osaka University of Foreign Studies*, New Series 19, 1998, pp. 233-259.

Chiba, Izumi, “Testimonio de machis: Lumaco (1) - Caso de doña Eudalia Raimán - <2>”, en *Estudios Hispánicos*, Seminario de Estudios Hispánicos, Universidad de Estudios Extranjeros de Osaka, Núm. 23, 1999, pp. 95-112.

CHIBA, Izumi, “Testimonio histórico mapuche, Comuna de Traiguén (1): “Pacificación” y lucha por la tierra contado por don José Cadín Pichún”, *Journal of Osaka University of Foreign Studies*, New Series 22, 2000.

Cooper, John M., “The Araucanians”, en *Handbook of South American Indians*, Washington, Smithsonian Institute, II, 687-760.

Éster-Greve, María, Fernández, Joaquín y Piedler, Carlos, “Mitos, creencias y concepto de enfermedad en la cultura mapuche”, en *Actas Psiquiátrica y Psicológica para América Latina*, XVII, 3, Buenos Aires, 1971, pp. 180-193.

Faron, Louis C., *The Mapuche Indians of Chile*, New York, HOLT, RENEHART AND WINSTON, 1968.

Faron, Louis C., *Antipaiñamko: Moral y Ritual Mapuche*, Santiago, Ediciones Mundo, 1997.

Foerster, *Introducción a la religiosidad mapuche*, Santiago, Editorial Universitaria, 1995.

Hilger, Inez M., *Araucanian child life and its cultural background*, City of Washington, Smithsonian Institution, 1957.

INE y SUR, *Los mapuches: comunidades y localidades en Chile*, Santiago, Ediciones SUR, 1997.

Montecino, Sonia, *Sueño con menguante: biografía de una machi*, Santiago, Editorial Sudamericana, 1999.

Montecino, Sonia y Conejeros, Ana, *Mujeres Mapuches, el saber tradicional en la curación de enfermedades comunes*, Santiago, Ediciones CEM, 1985.

Rosales, Diego de, *Historia General del Reino de Chile: Flandes Indiano*, Torno I, Santiago, Editorial Andrés Bello, 1989.

Titiev, Mischa, *Araucanian culture in transition*, Ann Arbor, University of Michigan Press, 1951.

(2000.4.14受理)